文部科学省指定事業

令和元年度採択「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」

（地域魅力化型）

研究開発実施報告書

第２年次

2021年３月

三重県立飯南高等学校

目　次

Ⅰ　巻頭言

Ⅱ　本校の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

Ⅲ　本事業 研究開発の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

Ⅳ　令和２年度 研究開発実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６

Ⅴ　総合学科の柱に位置付けている３科目の再構築
　１年次「産業社会と人間」の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７
　２年次「キャリアデザイン」の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６
　３年次「いいなんゼミ」の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２

Ⅵ　４系列の学び
　１　郷土・環境系列・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４３
　２　介護福祉系列・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４４
　３　総合進学系列・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４６
　４　コンピュータ系列・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４８

Ⅶ　授業改善にかかわる研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５０

Ⅷ　部活動での地域協働活動
　１　美術部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５１
　２　應援團 Circle　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５２

Ⅸ　各種データ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５６

Ⅹ　新聞報道等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６３

Ⅰ　巻頭言　　研究開発実施報告書の発刊に当たって

三重県立飯南高等学校
校長　土方　清裕

文部科学省「令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の第２年次の研究開発実施報告書を発刊することになりました。

第１年次である昨年度は、その前年度から進めていた地域課題解決型キャリア教育の取組を一層強化することができ、その中での生徒の成長に大きな手応えを感じていました。第１年次の実施報告書の原稿がほぼ出そろってきた頃、突然の臨時休業となりました。

今年度は、始業式、入学式はできたものの、すぐに再び約２ヶ月の臨時休業となりました。学校が再開されても、行事等に制限をかけざるを得ない状態であるのに、まして地域へと飛び出していけないのではないか。武器を全て奪われたような「身動きが取れない」感覚でした。

私たちを救ってくれたのは、７月開催の第１回コンソーシアム運営委員会での地域の方々の声でした。今年度の事業のポイントであった地元企業でのインターンシップをお願いして良いものか、逡巡している私たちに対して、「もっと早く言ってくれたら」「水臭いことを言うな」「一緒に対策を考えながらやろう」と励ましていただきました。ここから色々な取組に勇気を持って進められるようになりました。

この一年は、状況を見ながらその都度考え、計画を変更、修正しながら進めてきました。迷い、葛藤し、試行錯誤しながらの一年でした。しかし、だからこそ見えてきたこともたくさんありました。

・地域の課題を解決することが目的ではなく、課題解決に向かう中で生徒が成長することが目的であること。そのためには、生徒が課題を「自分事」に思うことが大切であること。
・目に見える表面的な活動の議論ではなく、生徒にどのような力を付けたいのか、生徒を起点にして学校と地域が共通言語をもって語ることが大切であるということ。
・「本気の大人」の「本気の伴走」が生徒を大きく劇的に成長させるということ。そのためには学校が「本気」でなければならないこと。

これらのことからもわかるように、この報告書は、事業を通じての生徒の成長の記録であると同時に、我々教職員の成長の記録でもあります。

今年度も、地元行政、小中学校、住民協議会、ＮＰＯ法人、産業界、高等教育機関、県教育委員会、市教育委員会等、県内外の皆様、地域の皆様と協働してこの事業に取り組むことができました。関わって頂いた皆様に、紙面をお借りして心より感謝申し上げます。

本報告書をご覧いただいた方々から忌憚のないご意見、ご助言、ご指導をいただき、次年度の取組をさらに充実、発展させてまいりたいと存じます。引き続きご支援を賜りますようお願いして、巻頭のご挨拶とさせていただきます。

Ⅱ　本校の概要

1　所在地

〒515-1411　三重県松阪市飯南町大字粥見 5480 の 1 番地

2　設置課程及び生徒定員〔全日制〕

科　別＼学　年	1	2	3	計
総合学科	８０	８０	８０	２４０

3　学校の基本理念

（１）教育使命

連携型中高一貫教育の改善･充実を図るとともに､基本的な生活習慣を身につけ、一人ひとりの生徒が学力を伸ばしながら､自立できる人間になることを支援します。

（２）教育目標

①人に優しく、思いやりの心を持つ生徒を育てます。
②基礎基本の学力の定着を図ります。
③生徒一人ひとりの個性を伸ばします。

（３）教育方針

①授業を大切にし、授業の改善・充実に取り組みます。
②学校・社会のルールを守る規律指導を行います。
③地域の子どもたちの「生きる力」を地域ぐるみで育成し、地域の小・中・高が一貫したキャリア教育を推進します。
④生徒・教職員ともに、人権尊重の精神を育成し、人権教育を推進します。
⑤生徒・教職員ともに、環境保全の意識を高め、地域社会とともに環境教育を推進します。

4　飯南地域連携型中高一貫教育校　～特徴のある取組について～

（１）「郷土学習」の実施

郷土の歴史、文化、自然、産業等を体験や調べ学習を通して理解するため、平成 11 年度から、各中学校は共通の 14 項目と独自の内容を理科、社会、音楽、技術・家庭、特別活動等で実施した。13 年度からは､「郷土学習」を中学校設定教科「人間と社会」､総合的な学習の時間（あしやまタイム、I-ＨＯＰＥタイム)、選択科目の中で実施するとともに内容の整理統合を行った｡高校では､総合学科の系列の中に、「郷土・環境」系列を設け、中学校で学んだ郷土の基礎的な内容をより発展、深化させるため、専門科目を開設し、計画的・継続的な学習を行っている。

（２）「人間と社会」と「産業社会と人間」の接続

中学校では、高校総合学科必履修科目である「産業社会と人間」に接続する教科「人間と社会」を特に必要な教科として設定した。また高校では、平成 16 年度より

２年次に「キャリアデザイン」（学校設定科目）を新設し、３年次の「いいなんゼミ」（総合的な学習の時間）へつなげ、中学校１年次から高校３年次の６年間で、生徒に自己の在り方・生き方を探究させ、望ましい職業観や勤労観を養い、目的意識や進路選択能力の育成を図っている。

（３）「総合学科」４系列との連携

本校は、「郷土・環境」、「介護福祉」、「総合進学」、「コンピュータ」の４系列を設置している。中学校では、この４系列に連携する取り組みを「総合的な学習」や「選択教科」の中で実施している。中学校で高校総合学科の内容に接することにより、総合学科に興味を持ち、高校への進学に対して目的意識が明確になっている。

（４）教職員の交流

中高での交流教員は、平成 18 年度から教科を数学・英語に限定して、中３高１のつなぎ学習に重点を置いて実施している。令和２年度は、以下の通りに実施した。

高校から：数学１名（飯南中学校へ）、英語１名（飯高中学校へ）
高校へ　：数学１名（飯高中学校から）、英語１名（飯南中学校から）

また、中高の生徒指導担当者、人権教育担当者、養護教諭も部会を定期的に開催し、情報交換を行っている。

（５）生徒の交流

生徒については、平成 18 年度から交流の機会を増加させ、中学校の各学年で年間２回を原則に実施している。

１年生：生徒交流会（７月）、出前いいなんゼミ発表会（２月）
２年生：生徒交流会（７月）、いいなんゼミ発表会見学（２月）
３年生：体験入学（８月）、連携入試対策講座（12 月）

また、高校の生徒会執行部や吹奏楽部、美術部、應援團 Circle が、各中学校の文化祭を訪問している。

（６）入学者選抜

連携中学校からの志願者に対しては、連携外中学校の生徒を対象とした前期選抜検査と同時期に、学力検査、調査書のいずれも用いず「課題学習のまとめ」と面接にて「中高一貫教育に係る選抜」を実施している。面接では、与えられた内容ではなく、自分が体験したこと、調べたことを発表するため、自信を持って臨んでいる。グラフや写真等、工夫をこらしてプレゼンテーション発表する生徒も多く、バラエティに富んだ内容になっている。平成 17 年度入学者選抜からは、パソコンによるプレゼンテーションを利用した発表も可能になっている。「課題学習のまとめ」のテーマとしては、職場体験、郷土、福祉、環境問題などが取り上げられている。

（７）中高一貫教育と大学との連携

中高一貫教育の趣旨を大学との接続にも活かすため、中高一貫教育と大学との連携に取り組んでいる。平成12年度から松阪大学（17年度より三重中京大学、25年度閉学）の協力を得て、大学教官によるリレー方式の高大連携授業を開始し、令和元年度からは、４大学４学部と連携した取組が行われている。令和２年７月には、高田短期大学と高大教育交流協定を締結し、11月には「いいなんゼミ」に取り組む３年生生徒への指導・助言をしていただいた。

Ⅲ　本事業 研究開発の概要

２０２０年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

<table>
<tr><td rowspan="2">指定期間</td><td>ふりがな</td><td colspan="4">みえけんりついいなんこうとうがっこう</td><td rowspan="2">②所在都道府県</td><td rowspan="2">三重県</td></tr>
<tr><td>2019～2021</td><td>①学校名</td><td colspan="4">三重県立飯南高等学校</td></tr>
<tr><td rowspan="3">③対象学科名</td><td colspan="5">④対象とする生徒数</td><td colspan="2">⑤学校全体の規模</td></tr>
<tr><td>１年</td><td>２年</td><td>３年</td><td>４年</td><td>計</td><td colspan="2" rowspan="2">全日制総合学科２３５名
１学年２クラス定員を３クラスに展開</td></tr>
<tr><td>総合学科</td><td>７７</td><td>７９</td><td>７９</td><td></td><td>２３５</td></tr>
<tr><td>⑥研究開発構想名</td><td colspan="7">「チームいいなん」の挑戦　～未来を切り拓く“地域に根ざした人材”育成～</td></tr>
<tr><td>⑦研究開発の概要</td><td colspan="7">総合学科の柱の３科目（「産業社会と人間」、「キャリアデザイン」、「いいなんゼミ」）を再構築し、３年間の学びの連動を強化して地域課題解決型キャリア教育の充実を図る。また、４系列の特色を活かした地域貢献のための学習活動、各教科・科目での地域題材・データを扱った教科横断的な学習の実施により、日常的な学びと地域・社会との連動を企図する。</td></tr>
<tr><td>⑧研究開発の内容等</td><td>⑧-1全体</td><td colspan="6">(1) 目的・目標
本事業では、地域を学び場とした地域課題解決型のキャリア教育の実践を通じて、自ら考え挑戦し、多様な価値観を持つ人々と対話・協働しながら、地域への愛着を持って地域に貢献し、地域の未来を切り拓くことのできる、地域に根ざした人材を育成することを目的とする。その目的とする人材に必要な、４つの資質・能力（対話力・追究力・創造力・発信力）を育成していくことを目標とする。

(2) 現状の分析と研究開発の仮説
・現状の分析
飯南高校の所在する松阪市飯南町と連携型中高一貫教育を実施している中学校が所在する飯高町では、近年急激に人口減少が進行している。さらに今後も減少が拡大することが予想され、このままでは地域住民と学生が交流する機会の減少、文化・産業資源の継承が困難となるなど地域の活力が低下し、地域とともに学校が共倒れになる可能性が高い。
このような中、平成 30 年９月から本校が中心となって連携中学校と協働し、地域を若者で盛り上げて活性化していこうとする「道の駅コラボプロジェクト」を始めた。この取組を通して、地域活性化にかかる本校への地域からの期待は高まりを見せてきている。
また、地域へ飛び出した活動が、生徒の成長に有意義であることを教員集団も再認識する機会となった。しかし、この取組は生徒の有志活動であり、活動メンバーが一部に限定されたものであった。
そこで、このような学びの場を生徒全員に提供し、学校の学習活動を地域と連動させていくことで、学校と地域が一体となって過疎化地域の将来を変えていくことに繋がるものと考え、次の仮説を設定した。
・研究開発の仮説
仮説①
地域へ飛び出した学習活動を学校全体で取り組むことで、世代を越えた人々との交流により、対話力が身に付くとともに、地元への貢献の喜びを経験することで一層の地域愛が育まれる。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td></td><td>仮説②
総合学科の柱に位置付けている３科目（「産業社会と人間（１年次：必履修科目）」、「キャリアデザイン（２年次：学校設定科目）」、「いいなんゼミ（３年次：総合的な学習の時間）」）や系列科目において、地域連携活動を推進することで、伝統文化や地域産業を再認識し、課題や改善点を把握・整理しながら追究することや、企画・提案することを通じて、課題解決に向けて創造する力・効果的に発信する力が育まれる。
仮説③
問いの設定や仮説を立てての学習、学習前後の振り返りの言語化等、授業改善を組織的に行うことで、日常的な生徒主体の学びを向上することができ、正解が一つでない地域活動への学びを高めることができる。</td></tr>
<tr><td>⑧
－
2
具
体
的
内
容</td><td>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画
ア　総合学科の柱の３科目における実施計画
１年次「産業社会と人間」（総合学科必履修科目）では、地域へ飛び出しフィールドワークを通して飯南町・飯高町の現状や課題等を聴き取り、地域の魅力マップの作成や将来の地域への提案を行う。
２年次「キャリアデザイン」（学校設定科目）では、地域の企業人、“本気の大人”との出会いを通じて、過疎化地域での仕事や生活等の課題・魅力について考える。
３年次「いいなんゼミ」（総合的な学習の時間）では、１・２年次の活動で生まれた問題意識や課題について、地域課題研究ゼミを設置しながら実践的で創造的な探究活動を行う。
イ　系列科目における実施計画
地域で栽培している作物や地場産業について、地域の生産者や地元企業等と協働して商品化や付加価値化を企画・提案する。また、地域の福祉課題について行政・福祉施設と連携して実践を踏まえながら課題解決策を模索するなど、地域と連携して新たな価値を創造していく。
ウ　探究的な学びを進めるステップ
ＫＪ法やワールドカフェ等の基本的なグループワークスキルを授業内に取り入れ、地域に飛び出した際に活用できるよう対話的な授業改善を行い、生徒自身の活用・習得を目指す。そして一斉授業・グループワーク双方のアクティブ・ラーニングを目指し、地域の題材・データを扱いながら、日常的な学びと地域・社会との連動を図る。

(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制
校内に設置する「地域協働カリキュラム推進委員会」を中心として、評価・改善提案を行う。また、「地域人材育成コンソーシアム・いいなん」や「飯南高校活性化協議会」による外部からの評価・改善提案も行い、地域人材が育てられているかどうかの検討を行う。

(3) 必要となる教育課程の特例等
特になし。</td></tr>
<tr><td colspan="2">⑨その他特記事項</td><td>平成 30 年度から連携中学校と協働して「道の駅コラボプロジェクト」に取り組み、学びの場を地域へと広げて、地域住民とも対話をしながら、若者で地域を盛り上げて活性化していこうとしている（３回実施）。また、地域課題解決に取り組む「答志島サステイナブルキャンプ」を県内外高校生、大学生、大学教授、行政関係者、関係団体、地域住民等約 100 名規模で、県内高校と共同主催し、過疎化地域の課題をフィールドワークや対話を通して考え、提案・行動するに至っている。</td></tr>
</table>

三重県立飯南高等学校地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）

「チームいいなん」の挑戦 ～未来を切り拓く“地域に根ざした人材”育成～

【育成する地域人材像】
自ら考え挑戦したり、多様な価値観を持つ人々と対話・協働したりしながら、
地域への愛着を持って、地域に貢献し、地域の未来を切り拓くことのできる地域に根ざした人材

地域課題解決型キャリア教育

産業社会と人間
地域魅力マップ作り
「道の駅」で掲示・評価
↕
地域住民・行政担当者との懇談
街頭インタビュー

キャリアデザイン
過疎地域での仕事・生活を考察
～豊かさとは？～
↕
地元の起業家・企業人との懇談
Ｕ＆Ｉターン者と懇談

いいなんゼミ
自身の提案に基づく実践
「いいなんゼミ」発表会
↕
地域課題研究
（生徒自身でテーマ設定）
仲間と対話、活動を創造

＜1年生＞
産業社会と人間
各教科

＜2年生＞
キャリアデザイン
（学校設定科目）
各系列での学び

＜3年生＞
いいなんゼミ
（総合的な探究）
各系列での学び

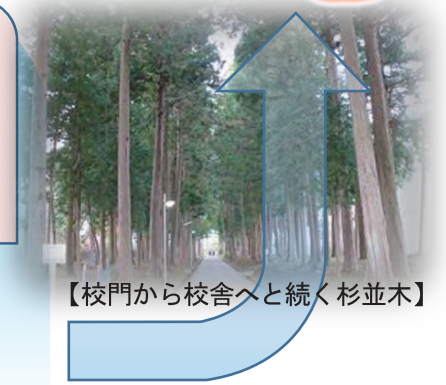
各教科・科目
「グループワーク」
スキルの向上

課外
道の駅コラボプロジェクト
飯南・飯高地域の魅力発信
↕
各系列、部活動で開発･制作した
作品の出品、販売
（緑茶ラテアートなど）

地域のフィールドワーク

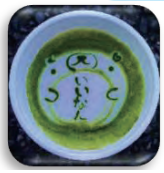
～資質・能力～
対話力
追究力
創造力
発信力

各系列の特色を生かした地域貢献の学び
【郷土・環境系列】松阪赤菜等、地域特産物の栽培⇒商品化、付加価値化を探究
【介護福祉系列】地域の福祉課題を調査⇒行政・福祉施設と改善に向けた懇談、提案
【コンピュータ系列】マーケティング手法を学習⇒販売計画、販売促進に活用
【総合進学系列】大学との連携⇒市議会等、地域の現状・課題を学び、改善提案・発表


【校門から校舎へと続く杉並木】

地域課題解決型
キャリア教育推進委員会（仮称）
（運営指導委員会）

検証・助言


【緑茶ラテアート】

連携

地域人材育成コンソーシアム・いいなん（仮称）
地元行政　地元企業　地域住民
ＮＰＯ　大学　連携中学校

支援

【「飯南」Ｔシャツ】